

昭和31年工業統計調査の実施について

(商工調査係)

本年も12月31日現在で、工業統計調査を実施することになりました。

御承知のとおりこの調査は、全国の製造工業について、従業者数、原材料の使用額、出荷額等を詳細に調べ、製造工業の面からわが国の経済活動の実態を明らかにする最も重要な統計をつくるために行われるもので、いわば製造工業についての国勢調査であります。

作成された統計表は、通商産業行政の資料とするだけでなく、国の諸施策、特に、最近は、中小企業対策の基礎資料として、また、企業家の実務上の参考資料あるいは学界の経済分析その他の研究資料として広く利用されており、かつ、わが国の経済事情を海外に紹介するための具体的な資料となり、世界工業センサスの一環として重要視されています。

なお本県においては、特に総合開発事業の計画樹立に貴重な資料として利用されるのであります。

この調査は、統計法に基く指定統計であります。したがって各工場から申告された調査票を他に見せたり、漏らしたり、またこの結果を利害関係に使用するようなことは絶対にありませんから、安心してありのままを正しく申告していただくようお願いいたします。

調査の様式及び方法は大体前年と同様ですが、本年は昨年付帯調査として実施した「製造工場を経営する企業の本社または本店に関する調査」が、指定統計調査としての「丙調査」に改められ、また調査票甲に「半製品及び仕掛品額」が追加されました。一方、毎年調査の必要のない「事業所開設年月」、「原動機の台数及び公称馬力数」、「機械装置の設備状況」および「自動車保有台数」等の調査は行わないことになりました。

甲乙丙調査および丙調査の調査項目は次のとおりです。

◎甲調査(従業者4人以上の事業所)

1. 事業所名(ふりがなをつけて下さい)
2. 事業所所在地(電話番号も記入して下さい)
3. 本社または本店名(事業所名と同じ場合は「同上」と記入して下さい)
4. 本社または本店所在地(事業所所在地と同じ場合は「同上」と記入して下さい)
5. 公称資本金額または出資金額(31.12.31現在で、会社に限ります)
6. 兼営の有無
7. 経営組織(31.12.31現在)
8. 従業者数(30日を超える期間を定めて雇用されて

いる臨時の者および前2カ月の各月において18日以上または前6カ月において通算して60日以上雇用された臨時および日雇の者も常用労働者に含まれます)

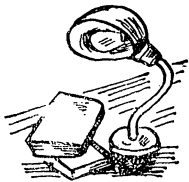
9. 月別常用労働者数(毎月末日現在数を記入して下さい)
10. 現金給与総額(31.1.1~31.12.31)
11. 原材料、燃料および電力の使用額ならびに委託生産費(31.1.1~31.12.31)
12. 製造品、原材料および燃料の在庫額ならびに半製品および仕掛品額(本年初—31.1.1現在—および本年末—31.12.31現在の総額を帳簿価額によって記入して下さい)
13. 有形固定資産の取得額、除却額および減価償却額(31.1.1~31.12.31)
14. 主要原材料名
15. 作業工程
16. 製造品の出荷額、在庫額等(製造品はと、事業所の所有に属する原材料によって製造された製品をいい、原材料を他に支給して製造させたものを含む、転売品または転売用の商品は含まれません)
17. 内国消費税額(物品税、酒税、骨牌税、砂糖消費税および揮発油税の税額の総額を記入して下さい)
18. 転売品販売価額および仕入価額(31.1.1~31.12.31)
19. 指定品目の自己消費量(31.1.1~31.12.31)

◎乙調査(従業者3人以下の事業所)

1. 事業所名(甲調査と同様に記入して下さい)
2. 事業所所在地(//)
3. 経営組織(//)
4. 従業者数(//)
5. 事業の内容
6. 製造品出荷額等(31.1.1~31.12.31)

◎丙調査(事業所2以上を経営する企業の本社または本店)

1. 本社または本店名(ふりがなをつけ、代表者の職氏名も記入して下さい)
2. 本社または本店所在地
3. 公称資本金額または出資金額(31.12.31現在)
4. 経営組織(31.12.31現在)
5. 主要業務(31.1.1~31.12.31)
6. 本社または本店の常用労働者数および常用労働者現金給与総額
7. 製造品、原材料および燃料の在庫額
8. 有形固定資産の取得額、除却額および減価償却額(31.1.1~31.12.31)
9. 本社または本店が発注した委託生産品(31.1.1~31.12.31)
10. 製造工場名簿(31.12.31現在)



(統)(計)(用)(語)(の)(解)(説)

〔国民表〕 一国あるいは、一地方の居住者全員について作成された死亡表で、男子表、女子表、男女合併表などに分れる。わが国にあける最近の国民表は、昭和33年8月厚生省が編さんした第九回生命表がある。

〔大納会〕 取引所における1年の最終立会のこと、

年末約会、納め相場ともいう。取引所によつて異なるが大体12月27、28日ごろを大納会としている。

なお1年最初の立会は初立会あるいは大登会で毎年1月4日に行われる。

編 集 室

◎22日は冬至だ。いよいよ寒さも本格的になつたが、町は歳末大売出しやクリスマスセールで大にぎわいだが全く年の瀬が迫つた感じが深い。ここにあわただしく過ぎようとしている1956年も、余すところ幾日もない。実に月日の流れは早いもので、編集室がこの仕事を始めてからすでに3年目に入つたが、編集や原稿作りに素人ながらも何とか努力して読者の皆様に喜ばれるものにしたと念願してきた。しかしどうしても場当たり式の寄せ集め原稿になつてしまい、皆様に多大の御迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。文章をすること、文をまとめることが実に難しいことを今更ながら痛感するものである。わが国女流文壇の大御所Y女史も某雑誌にその苦しさをしみじみ述懐していたが全く驚入る許りである。われわれ素人が難しいことは当然である。現代作文の基本は思つていることや現実にあつたことをそのまま分りやすく書いて行くことであると思うが、なかなかそれができないのである。私たち素人はどうしても、文を美しく、立派なものにしようとして、思つていること

を十分表現できないでしまう。またややもすると主観的に陥つて、機関誌(紙)の客観的使命を失う恐れが多分にある。商業新聞でさえも輿論の力に左右されて行くのだから私たちの機関誌(紙)も常に読者の皆様から忌憚のない御意見と率直な御批判によつて、よりよいものに作り上げて行きたいと思つている。

ここに行く年を惜しみながら私たちは、過去を振り返つて、いろいろの出来事や生活態度に対し深く自己反省をして、新しい門出の教訓や心構えを作り、そうして公私とも平和で明るい社会の建設に努力しましょう。なお表紙の写真は水戸市内における歳末風景である。

◎世界の好景気や2年連続の豊作によつて、日本経済はますます好調をつづけているが、私たちは余りにも数量景気や投資景気、消費景気に酔い過ぎてはいないだろうか？この景気は来年も少しつづくだろうが、物価の横ばい状態が少しづつ騰貴の方向に踏み出しているのを見逃してはならない。特に1万円札が近く登場することによつて、眠れる大獅子のインフレが揺り動かされねばよいかと心配する向も少くないが、これは1万円札などには縁遠いサラリーマンの思い過ぎだろうか？